

中学部 第3学年 社会科（公民分野）学習指導案

指導者 溝田友気

1. 単元名 「日本の財政と国民の福祉」

2. 単元目標

- 国民の義務である納税と権利である社会保障との関係を複数の視点から正しく理解し、国民の生活の向上と経済活動とのかかわりについて、諸資料を基に調べまとめる技能を身につける。

【知識及び技能】

- 納税の意味や意義、行政や社会保障、国民生活と関連付けて、多面的・多角的に考察し、納税者である国民や社会保障費に関する財政の課題について公正に判断し、思考・判断したことを説明する力を養う。

【思考力・判断力・表現力等】

- 納税者や社会保障費に関する課題の解決に向けて、主体的に社会に関わろうとする態度を養い、国民主権を担う公民として、国民の納税への理解と協力（互助の考え）についての自覚を深める。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

(1) 題材・教材観

本単元では、国民の義務である納税によって、行われる様々な施策から社会保障を通して、現代にある社会問題を財政の視点から考え、今の自分にできる社会参画について考えさせる。

税と社会保障は、中学生でも身近にある消費税や健康保険、国民健康保険などから日本の財政の課題について、想起しやすく、学習への意欲・関心を高めるのに効果的な題材である。また、教材として、社会保障費の推移やいくつかの人口ピラミッド、増税や社会保障費増額についての複数社の新聞記事などを用いることで、過去から将来にかけての日本の財政状況を比較し、思考を行うことができる。これらの活動を通して、年代別の国民意見についての理解を深め、今後の社会参画に対しての生徒自身の考えを確かなものにできる教材である。

この学習を通して、日本の財政に関する課題について、複数の資料を比較し、異なる立場から考え、現在と将来の社会参画につなぐ素地を養うことができ、意義深い題材・教材であると考ええる。

(2) 生徒観

本学級の生徒たちは、これまでの学習内で過去から現在にかけての日本の政治的発展の歴史や、その中で培われた現在の日本社会の仕組みについて学習をしてきた。これまで学んできた社会的事象や用語について、記述的知識としての定着は一定以上みられるものの、自身の生活や体験との結びつきという点で、課題が多い。また、日常から SNS やネット動画の視聴が多く、得ている情報の偏りがある。一方で、得た情報について吟味せずに受け入れている場面が多々見受けられ、メディアリテラシーに課題があり、社会的事象について自分自身で考えることができていない。加えて、社会の情勢について教員の説明をしっかりと聞き、授業内での発言はあるが、学校外での言動につながる必要感を形成するまでに至っていない。

(3) 指導観

本単元の指導にあたって、将来身近に体験する税について身近に捉えさせ、社会保障を中心とした日本の財政を考え、生徒自身の言動につなげさせることをねらいとする。

まず、本単元で用いる記述的知識について身近な例などから解説を行う。その際、本単元で使用する資料を用いることで、次時の学習への動機づけと関連付けを図る。次に、財政にかかわる資料や日本人口統計にかかわる資料を提示し、読み取る活動を行うことで前時までの学習内容の定着、強化を図る。また、現行制度に行き着くまでの経緯の理解を促すために、各種資料の変化や推移に着目させる。

次に、持続可能性を考えた社会保障制度を考えるため、現行制度のままで予想される人口推移に移行した場合の変化を考えさせる。その際、財政における歳入の割合と具体的な額について提示を行う。また、中学生の立場だけでなく、自身が生産年齢人口や老年人口になった際の社会保障について考えさせ

るよう発問を行う。

最後に、単元の学習として、現行社会保障制度について年少人口、生産年齢人口、老年人口の三つの立場から良いと考える点、改善点、どちらともいえない点で整理を行い、吟味を行う。その際、社会保障制度の代表的なものをいくつか提示する。また、次時の学習で選挙公約を取り扱うため、本学習で考えた結果を基にして年代別の投票行動を各党のマニフェストから考えさせる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点

有限性・・・限られた財政の中で行う政策について、課題点を考える。

公平性・・・世代間で享受できる恩恵の差や自身が世代を移り変わることを考える。

・ESD を通して身につけたい資質・能力

クリティカルシンキング

現行の政策に対して、課題を見出して新たな視点から代替案や解決策を見出す。

長期的思考力

資料やデータに基づき、日本の未来の情勢を想像する。

・ESD を通して育てたい価値観

「世代間の公正」を重要視できる

政策について、異なる年代のメリットとデメリットを考え、人口構成の変化から次世代に向けた考えを発表する。

・達成が期待される SDG s

10 人や国の不平等をなくそう

4.単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①日本の財政、税制や、日本の社会保障制度の仕組みに関する資料の選択・分析する。 ②主権者の立場からその仕組みについて理解している。	日本の財政、税制や、日本の社会保障制度のあり方について、様々な立場の主権者の視点で、考察し、表現している。	財政と社会保障について、複数の立場の納税者の視点から、意欲的に追求を目指している。

5. 単元計画 (全 5 時間)

時	○学習目標 ・主な学習活動	教師の支援 ○視点 ※能力・態度	評価
1	○社会保障について確認し、財政との関係性を整理しよう。 ・日本国の国家予算を確認し、歳入・歳出の内訳を確認する。 ・政府のオペレーションと景気への効果について確認を行う。	・用語確認とともに今後の学習で用いる資料との関連付けを促すため、随時資料の提示を行う。	・確認テストでの回答を適切に行えているかどうか (知識・技能)
2	○日本の人口推移と社会保障費の比較をしよう。	・資料を提示し、読み取る視点として、年齢別の人	・資料を適切に読み取ることができているか (知

	・人口推移、人口ピラミッド（1980 年 代、2010 年、2050 年）、日本の歳入 歳出推移を比較・読み取りを行う ・今後の日本の財政について、生徒自身の 意見を考える。	口割合を提示する。 ・生徒の意見形成のため、 SNS や新聞等での意見 を取り上げる。 ○有限性 ※長期的思考	識・技能） 自身の意見を財政の視点 を踏まえて、振り返りシ ートに記述することができ ている。（思考・判断・ 表現）
3	○日本における財政の課題とその原因につ いて、考えをまとめよう。 ・歳出の増加を各項目で捉える。 ・今までの学習からそれぞれの項目におけ る具体的な税金投入の形を考える。 ・少子高齢化や物価上昇などと歳出増加を 関連付ける。	・歳出の項目について、 小呂島に関わる事例か ら紹介を行う。 ・近年の歳出増加につい て、具体的な制度の変 化や人口統計の変化と の関係を見出させる。 ○有限性 ※クリティカルシンキング	・授業の振り返りを少子 高齢化・物価上昇の視 点を踏まえて、歳出増 加について記述できて いる。（思考・判断・表 現）
4 本 時	○今後、100 年続く社会保障制度のあり 方を考えよう。 ・前時で考えた原因を基にして、社会保障 費を中心に、解決策を考える ・社会保障費について、年齢別での立場か らどのような中身がよいかを考慮して吟 味を行う。	・本時で考える事柄として、 社会保障費という視点を 提示する。 ・異なる立場で社会保障費 について、考える視点が 異なることを示すため、 年代別での社会保障費支 出の例を提示する。 ○有限性 ※長期的思考	・年齢別に社会保障の良し あしを記述できている。 （思考・判断・表現） 自分事と捉え、社会保障 の視点から、自身の生活 や将来について考えられ ている。（学びに向かう 人間性）
5	○様々な主権者の立場から、現在の社会保 障制度を吟味しよう。 ・現状の社会保障制度を自分の考えと照ら し合わせ考える。 ・現状の社会保障制度になった背景につい て考える。 ・次時での選挙と関連付けるため、政党の マニフェストを取り扱う。	・異なる立場の視点で社 会保障費について、考 えるよう前時での振り 返しを行う。 ・現社会制度に行き着いた 経緯を考えるため、今の 日本の人口推移や物価上 昇率の推移について、提 示を行う。 ・社会保障費という視点か ら、政党のマニフェス トを確認させる。 ○公平性	・現行の社会保障制度に ついて、複数の立場か ら考え、記述すること ができている。（思考・ 判断・表現） 次時の学習と本単元の 学習と踏まえた振り返 りをできている。（学び に向かう人間性）

7. 本時の目標

- ・ 資料を根拠にして、年齢別に社会保障の良しあしを表現ができる。
- ・ 自分事と捉え、社会保障の視点から、自身の生活や将来について記述をすることができる。

8. 本時の展開

過程	主な学習活動と内容	○指導・支援 ☆見る視点 ※評価
導入	1. 本時の学習課題を確認する。	○ 前時をふり返し、見通しをもたせる。 ☆ 財政面での限界が今後予想されることについて発言がある。
	【めあて】今後 100 年続く社会保障制度にするにはどのような条件が必要か考えよう	
	2. 現状の仮説を立てる 「社会保障費を減らす、防衛費を減らす（歳出の削減）、累進課税の税率を上げる（歳入の増加）」	○ 前時までの学習内容を用いて、予想をたてさせる。 ○ 根拠について、詰まる場合は前時までの資料について使用するよう促す。
展開	3. 社会保障費に着目して、考えを再構築する。 (1) 各種資料から社会保障費について、良い点と課題点を考える。 (2) 今後続けるためにはどうすべきか、具体的な政策の増減案を考える。	○ 思考ツールの提示を行い、良い点や悪い点について、整理を促す。 ○ 社会保障費に着目させるため、資料の提示と島の身近な例などを紹介する。 ☆※ 持続可能性の視点を根拠として用いているか（思）
まとめ	4. 異なる立場の場合、どのような捉え方になるか考える (1) 年齢や属性に応じた異なる立場があることを確認する (2) 立場別での良い点・悪い点について、整理を行い、それぞれの考えをまとめる。 ・ 年少人口（今） ・ 生産年齢人口（20～30 年後） ・ 老年人口（50 年後）	○ 様々なライフステージに応じて、社会保障費の恩恵があることに気づかせるため、具体的な社会保障制度について資料を提示する。 ○ 展開で用いた思考ツールを用いて、新たに立場別での整理を行う。 ○ それぞれに対する理由づけについて、記述できるよう資料を準備を行う。 ☆※ 世代間の違いについて、考えて表現を行っているか（思）
振り返り	6. 学習のふり返しを行う。	☆ 学習をふり返し、本日の学習と自身の思考について記述に残すことができている。